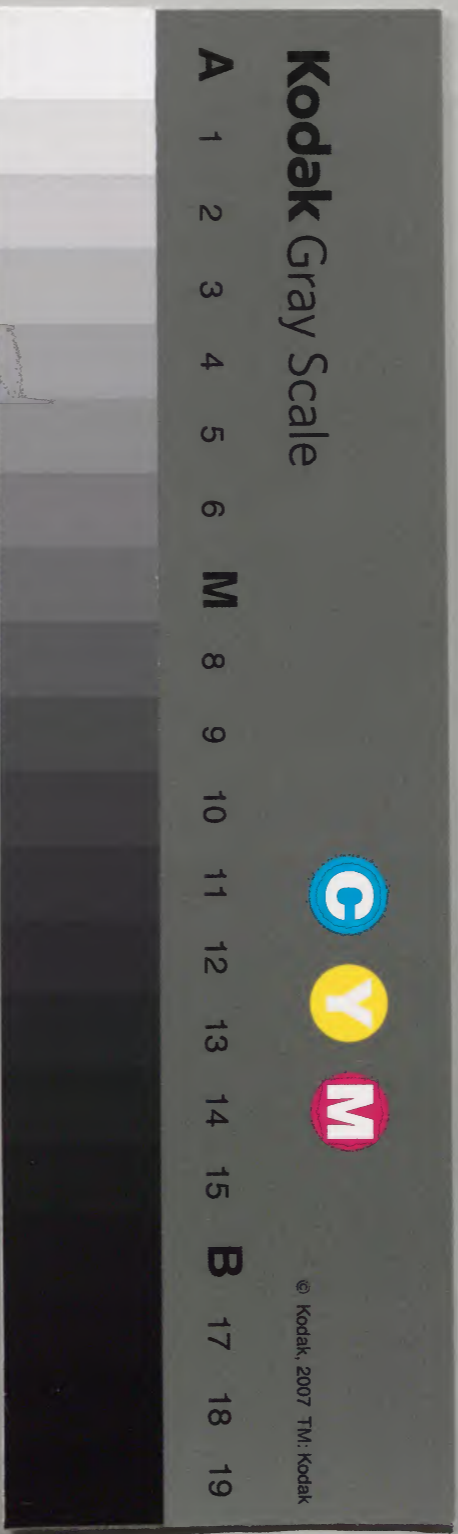


病學通論

三

庫	文	閣	內
一九五	二九五	和	
函	五三六	書	
一三	號	類	
架	三冊		

內閣文庫	
番號	和 29526
冊數	3 (3)
函號	195 280





病學通論卷之三目次

明治十二年購求

疾病總論 第二

疾病統別

真別

假別

部位區別

汎發病 局發病 內病 外病 自患病

交感病 半身病 定處病 遊移病 內陷病

單複區別

單病 複病 合併病

經過區別

病學通論卷之三目次

久暫區別

急病 熱性病 慢病

進退區別

暫留病 往來病 間歇病

時期區別

初期 進期 極期 退期

分利 散渙 屈留實達 古究室阿

吉利濟 分利日

歸終區別

治癒 自然良能 轉徙 變形 再發 死

病性區別

重病 輕病 善性病 惡性病 頑性病

治病 不治病 死病 有利病

由來區別

遺傳病 先天病 後天病 根病 屬病

流行病

英^エ埵^ト密^ミ 越^エ必^ビ埵^ト密^ミ 越^エ必^ビ埵^ト密^ミ 性

時^ト令^レ越^エ必^ビ埵^ト密^ミ 留^ル淹^ム越^エ必^ビ埵^ト密^ミ

傳染病 散在病

凡百疾病ヲ統括メ之カ區別ヲ立ルニ二法アリ
 一、生力病。凝體病。流體病等ニ分カ如ク其本體ニ因
 テ分ナリ是ヲ真別（フルセリニイガト謂一部位）
 單複經過病性由來等ニ隨テ分ナリ是ヲ假別（ツ
 フアルリグフルト謂而察病施治ノ際ニ在テハ假
 別殊ニ最要ノ先務トス）
 緒方 章 公裁 譯述

病學通論卷之三

疾病總論 第二
 緒方 章 公裁 譯述

疾病統別（アルゲメル子フルデニ
 リシグデル、シリキテシ）

凡百疾病ヲ統括メ之カ區別ヲ立ルニ二法アリ
 一、生力病。凝體病。流體病等ニ分カ如ク其本體ニ因
 テ分ナリ是ヲ真別（フルセリニイガト謂一部位）
 單複經過病性由來等ニ隨テ分ナリ是ヲ假別（ツ
 フアルリグフルト謂而察病施治ノ際ニ在テハ假
 別殊ニ最要ノ先務トス）

部位區別

汎發病

シアルケメニ

局發病

ケブラーレニ病汎

總身ニ發スルヲ汎發病ト名ケ一器一系ニ發ス

ルヲ局發病ト名ク

諸器相連テ一運管ヲ為ス者

胃大腸ヲ統テ之ヲ消食一系ト謂ハ胃管

動靜脈ヲ連テ之ヲ血行一系トスルカ如蓋夫生

力ハ總身一體ニメ諸器互通シ運管交感ス病局

發スルハ理無ニ似タリ然レ體中各器感應性ヲ

異ニシ抗抵情ヲ同セス前亦局發無ハアラス故

ニ此器害ヲ被レハ獨抗抵メ彼器之ヲ知サル者

アリ或一系ニ在テ有害病毒タルモ總身ニハ然

サル者アリ喻ハ徽毒初起唯感染ノ部ヲ侵シ其

蔓延スルニ及デモ亦唯粘液膜骨膜等ヲ襲テ内

藏血液ハ害ヲ被サルカ如シ所謂汎發病亦其因

一器一系ニ在者居多而其總身ニ現スル所以者

ハ有形與奪無形交感ニ在リ有形與奪ハ胃腸病

乳糜製造ヲ妨ケ肺病酸素布化ヲ碍テ以テ總身

ノ榮養ヲ奪ヒ或胃腸不和未熟液ヲ生シ肺藏潰

瘍敗汚膿ヲ釀シ以テ總身ニ病毒ヲ與ルカ如是

ナリ無形交感ハ胃腸ニ毒有テ總身發熱ニ蛔蟲

刺衝四肢ニ麻痺瘰癧ヲ起スカ如是ナリ是故ニ

刺衝過劇ナラス交感已甚オラス患部運營總身
 ニ管セズ總身感動敏銳ニ過サレハ病多ハ一處
 ニ局スル者トス
 輓近病學家人身諸器ヲ統テ之ヲ三系ニ繫ク
 乃腦脊髓神經ヲ覺系スゲルセリゲト名ケ心肺
 脈筋ヲ動系スリケルバルト名ケ腹藏乳糜道
 榮養管ヲ養系レプロダセルト名ク而局發病
 亦此三系ニ隨テ區別セリ生力運營ヲ統テ此
 三機覺機動機養機ニ配スルハ固當リ然ト雖凡諸器
 ヲ以テ之ニ配スルハ抑牽強附會ニ屬ス況ヤ

疾病ニ於ルヲヤ今夫血脈ノ如之ヲ動系ニ屬
 スト雖凡實ニ榮養ノ要器ナリ乃其病亦豈養
 機ニ變ニ非ルヲ得ヤ又胃腸ハ養系ニノ嘔
 逆疼痛等常ニ動覺兩機ノ病ヲ現シ腦ハ覺系
 ニノ炊衝水腫等動機養機ノ病ヲ發ス且局發
 炊衝ノ如ハ覺疼痛動筑腫養脹三機ニ罹ル其之ヲ
 何ニカ配セン

内病	インケンダゲ	外病	オイトケンチ病
シ	ン	ゲ	ニ
キ	ン	シ	ン
テ	ダ	ト	チ
ン	ゲ	キ	病

 分ハ猶之ヲ汎發局發ニ分カ如シ外病必皮表ニ
 位メ總身ニ係サルニハ非ス卻テ内部病ヨリ歧

スル者居多故ニ外病外用藥ヲ必トシ内病獨内藥ノ主ル所ト意フ勿レ内外交療術ヲ互ニセサレハ其治ヲ得サル者鮮カラス

自患病 エイゲンレイデ 交感病 メーレイデン

凡病其因ノ所在ニ現スルヲ自患病 本ト名ケ病

因這部ニ在レ交感メ那部ニ現スルヲ交感病 標

ト名ク腹藏壅塞ヨリ發スル狂疾。蛔蟲ヨリ起ル

癩癩ノ如乃交感病ナリ

半身病病左右劇易ヲ異ニスル者或唯半身ニ發メ半身患無者是ナリ乃麻痺。痙攣。皮疹。頭痛。膝痛

等ニ於テ常ニ見カ如シ或偏身瘧ヲ發メ偏身麻

疹ヲ患ル類アリ皆是一身神經左右各感動ヲ異

ニスルニ係ル者トス又腦脊髓ノ左側ニ病アレ

ハ右身麻痺痙攣等ヲ發シ右側ニ在ハ左身患證

ヲ生ス是神經始テ出ル所ノ處ニ於テ左右互ニ

相イメ而右ニ出シ者ハ左身ニ循リ左ニ出シ者

ハ右身ニ行ハナリ

定處病 ズストシテン 遊移病 オムズ空ル

陷病 テリスグテレ 終始一處ニ定住メ移動セ

サル者ヲ定處病ト名ケ彼此ニ遊走メ處ヲ移ス

者ヲ遊移病ト名ケ外表ニ位セル者轉メ内部ニ
陷者ヲ内陷病ト名ク共ニ又部位ニ隨ノ區別ニ
屬ス

單複區別

單病 エーホウヂ 複病 サーメンゲステ 合併病 ゲシキテン

雜ナル者ヲ單病ト名ケ病因一ナレハ諸器ヲ侵

テ諸種ノ患證ヲ現スル者ヲ複病ト名ケ 喻ハ徵

潰瘍肺焮衝等 病因各異ニメ異種ノ患證混同シ

發スル者ヲ合併病ト名ク蓋人身諸器連續メ運

營貫通ス故ニ病居然トノ獨一器ヲ侵テ止者ニ

非ス乃所謂單病ナル者實ニ希ナル所以ナリ

經過區別

經過 ハ 疾病ノ久暫 進退 ヲ 進退 ヲ 進退

期 テ 歸終 ヲ 總ル名ナリ故ニ此區

別ニ係ル者甚汎シ

其一久暫區別

急病 ハ 慢病 ス 經過短速ニメ

其死スルト治スルトヲ論セズ速終ニ歸スル者

ヲ急病ト名ケ之ニ反スル者ヲ慢病ト名ク而急

病ハ大率皆熱證ヲ兼故ニ亦熱性病シコルチン

ノ名アリ經過短速者必熱ヲ兼ルニ非ス緩急病

四日ニ終者ヲ最急テ終始發熱スル者アリ七日ニ至者ヲ

甚急ト名ケ二三週者ヲ常急ト名ケ

名ク而其四十日ニ至者ハ假令劇證アルモ之ヲ

慢病トス但其外見急病ノ如ク得者ハ之ヲ假急

トシケイニバト名ク病慢急ヲナス所以種種アリ

一病ノ素性ニ由生カヲ擾亂シ溫素ヲ煽動スル

ト急劇ナルカ或之ヲ抑頓シ若ハ之ヲ減卻スル

ト暴卒ナル病ハ皆其經過迅速ニメ躊躇スルノ

暇ナシ乃熱病。焮衝。痙攣。搐掣。昏睡。卒倒等ノ如シ

而之ニ反スル者ハ之ニ反ス二病ノ劇易ニ由輕

易ノ病ハ治シ易ヲ以テ固久ヲ瀰ラス過劇ノ病

亦生力虛脱スルト速ヲ以テ其經過短シ故ニ病

遷延瀰久スルハ大率劇易中等ヲ得者ニ在トス

三病ノ位地ニ由病同一ナレ其侵ス所器同カ

ラサレハ其慢急ヲ等セス喻ハ骨焮衝緩慢ニメ

肺焮衝急劇ナルカ如シ四體ノ強弱ニ由體力較

強ケレハ病敵ヲ拒ムト久ニ堪テ其經過自日ヲ

延生力極テ弱ケレハ速ニ陷没メ其病持久スル

ヲ得ス

其二進退區別

暫留病

アーンホウデン
デシキテン

往來病

ナラキテン
デシキテン

歇病

デシキテン
デシキテン

病證終始間斷ナク荏苒陸

續スル者ハ之ヲ暫留病ト名ク然レモ若ク一向ニ

暫留持重スル者ハ甚罕ナリ夫暫留熱ノ如キ漸

進テ最極ニ至リ漸退テ終末ニ歸ス且一日間猶

多少ノ張弛アリ唯其進退往來病ノ如較著ナラ

サルノミ但形質缺損大ニメ生力衰弱甚キ者ハ

其病卻テ荏苒瀰久スルヲ得按ニ麻痺水腫等ノ類之ニ屬ス

往來病ハ其證時ニ著降退シ時ニ著外進スル者

ヲ謂而其升進大抵晚ニ於テス日晡潮熱ノ間歇如乃是ナリ

病ハ其進退最著ク退時ハ諸證全去テ若干時間

休歇スル者ヲ謂其發歇時刻整然トメ一定セル

者アリ然サル者アリ或毎日一發二日一發三日

一發一週一發一月一發一年一發春秋一發者ア

リ或此發スル毎ニ時刻進者後者二發重複スル

者アリ病右ノ如時期ヲ差ヘス次序ヲ紊ラス發

歇往來スル所以體內ニ在テハ生力衰盛病毒聚

散抗抵常習等之カ因トナリ體外ニ在テハ地球

一轉一晝夜大陰一周一月四時ノ運。五星ノ行等之力

原トナル。且實驗ニ由テ之ヲ觀ニ間歇諸病ノ因

ハ大抵皆腸胃若ハ他腹藏ニ在者ナリ或云間歇病ハ神經

者患ナル者多シ而腦神經ニ係ル者アリ運化神經ニ係ル者アリト

凡萬物。日月星辰ノ運行ニ感メ變化ヲ致サ

ル者有トナシト乃介虫ノ肉。月下迭ニ盈虛シ合

歡ノ葉。日夜ニ寤寐シ草木ノ莖葉花實鳥獸ノ

孳尾孕胎。時令ニ隨等一。枚舉ニ違アラス人身

萬有ノ一ナリ故ニ其運營時ヲ守リ變化期ヲ

愆ラサル亦多。此感應ニ在トス然其原由體內

ノ機ニ係ル者ハ左三件ニ在リ

生力衰盛抗抵過劇ナレハ感應力必罷弊ス罷

弊スレハ刺衝物留在スル凡之ニ抗抵スルト

能ハス且其罷弊ヲ復メ故ノ抗抵ヲ發センニ

ハ必若干時ノ休息無ハアラス猶勞動過度ニ

メ筋力罷弊セル者若干時ノ休息ヲ得テ更ニ

初力ニ復スルカ如シ

病毒聚散抗抵強發スレハ病毒之カ為ニ散換

ス散換スレバ其カ感應力ヲ挑ニ足スメ抗抵

自歇ム而其毒更ニ復聚積メ故ノ刺衝ヲ為サン

ニハ又必若干時ノ際無ハアラズ喻ハ痔血月
 經等一泄ノ後血液故ニ復メ復漏泄スルニハ
 必一定ノ時日ヲ以テスルカ如シ
 抗抵常習抗抵若干時ヲ間テ發動スルノ數ス
 レハ後終ニ常習トナリ刺衝ノ有無ニ拘ラス
 メ同時刻ニ同抗抵ヲ發ス喻ハ連夜時ヲ定テ
 人ヲ喚寤スレハ後其打起ヲ待ス時ヲ刻メ自
 醒覺スルカ如シ故病證發歇常習ニ係ル者殊
 ニ多シトス

其三時期區別

初期	ベキ	進期	ツ	子	極期	ホ	退期	ア	子
ン	ン	ン	ン	ン	ン	ン	ン	ン	ン

病初未一定ノ形模ナシト雖凡其將ニ發セント
 スルノ證候ヲ現ス此間之ヲ初期ト謂而凡急發
 病ニ於テハ此期ナキ者多シ且其未患トスルニ
 足サルヲ以テ病者大抵之ヲ知ス進期ハ病既ニ
 發メ諸證漸加倍シ諸患益増進スルノ間トリ極
 期ハ其増進已甚ノ極ナリ退期ハ極期ヲ過テ復
 治ニ至マテノ謂ナリ此時較然タル一種證候ヲ
 發メ諸患頓ニ脱スル者アリ之ヲ分利シキリト謂
 或緩緩慢慢漸ヲ以テ退者アリ之ヲ散渙シト

謂凡病熱性_熱生力活潑_熱者醫治攝生誤_熱十
 者_熱分利ヲ以テ解_熱生力虛弱_熱以熱性_熱ヲ
 ス遷延瀰久スル諸病及輕易_熱刺衝至微_熱ナル
 諸患ハ散渙_熱ヲ以テ了_熱者トス○凡病_熱進期極
 期ニ當テハ刺衝已甚_熱シテ生力頓挫_熱シ抗抵擾紊
 シテ分泌閉塞_熱機_熱ハ全_熱其内刺衝物_熱等_熱其常性
 ヲ失_熱古人之_熱ヲ斥_熱メ屈留_熱實達_熱未_熱熟_熱ト名ク退期
 ニ於テハ擾紊セル抗抵降鎮_熱又漸_熱平全_熱ニ歸_熱シ閉
 塞セル分泌寬解_熱徐_熱常機_熱ニ復_熱シ病毒緩融_熱シテ
 分利ニ適スルノ度ヲ得_熱ニ至_熱ル之ヲ古屈室阿_熱熱_熱

義ト名ク是時ニ當テ一種ノ劇證ヲ發シ以テ生
 力運營總身對稱シ過剩害物諸竅ニ排泄ス之ヲ
 吉利濟_熱ト名ク而_熱其害物ヲ排泄スルハ大抵
 出血發汗利尿嘔吐下利吐痰流涎等ヲ以テス○
 分利亦一定ノ日期アリ其期固各病ノ性ニ準_熱ト
 雖_熱凡大率_熱四日七日ノ數ヲ以テス乃_熱病初_熱第七日
 第十一日第十四日第廿一日ニ於テスルヲ常ト
 ス之ヲ分利日_熱ト謂_熱然_熱凡亦稟賦體質氣候
 醫治攝生等各異ナルニ隨テ遲速少差ナキ_熱能
 ハス

古人謂病皆毒有テ發ス病初ニ於テハ其毒未
 熟セスメ之ヲ外泄スルニ適セス故ニ生力先
 大動亂ヲ起テ之ヲ烹釀セシトス是屈留實達
 ナリ而後其化熟古屈窟阿ヲ待テ之ヲ體外ニ排泄
 ス是吉利濟ナリト輓近病學家云病皆抗抵變
 動ノミ所謂病毒ナル者有ニ非ス夫病末ニ排
 泄スル物質ハ皆其變動ノ餘弊ニ成ル者ナリ
 喻ハ焮衝後ノ吉利濟ハ唯抗抵降鎮メ動亂復
 膿液ノ如シ治スルヲ斥ノミ其時ニ現スル劇證ハ生力運
 營對稱セニカ爲ニ發スル一種ノ抗抵ナリト

按病固抗抵變動ニ發メ毫末ノ毒有_レナキ者
 少カラス此ノ如者ニ於テハ烹釀排泄共ニ要
 ナラス其吉利濟唯抗抵ノ降鎮ニ在_ルニ且假
 令毒有テ發セル病モ烹釀化熟ノ時ヲ經_ルヲ俟
 ス速_ク出血吐下等ヲ發メ頓ニ寛解スル者アリ
 新說理有_ル然_レト雖_レ凡實ニ其毒ヲ具_ルト顯然夕
 二似夕_リル病亦多シ此ノ如_キハ抗抵ノ降鎮ヲ以テ分解
 スル_レト能ハズ必_ズ烹釀排泄無_クハアラス且_モ原來
 毒無_クメ發セル病モ分泌閉塞メ廢液鬱滯シ或
 抗抵變態メ異常ノ物質ヲ生シ以テ病毒トナ

ル者アリ是素病ノ餘弊ニ成ト雖凡逾病體ヲ
 苦テ更ニ患證ヲ持久セシム故其排泄ナクレ
 ハ其病治スルヲ得ス 古說亦是故ニ疾病ノ
 眞理ヲ究ント欲スル者ハ偏ニ生力ノ機ニ拘
 泥セズ強テ物質ノ變 病ニ凝滯セズ 兩原 生力
 ヲ合メ一層ノ工夫ヲ下サントヲ要ス

其四 歸終區別

發	治癒	轉徙	變形	再
ルイ チン スグ ト	シゲ ン子 グ	フル ン グ	フル ム ン グ	再
死	治癒	變形	再	
ド	ハ	病	全	分
			利	ヲ
			得	テ
			病	

機全止 病毒悉盡 運營對稱ノ總身健康ニ復スル

ノ謂ナリ凡活體ノ性タル醫治ヲ須ス自病敵ヲ

退テ平常ニ復セントスルノ妙機ヲ具之ヲ自然

良能 テ 子 ト セ ト 謂其妙用究ヘカラスト雖凡

畢竟三機ニ成ル外來ノ感動アレハ其有形無形

ヲ論セス生力必抗抵メ之ヲ防拒ス 感應 一ナリ

體中異常ノ物質アレハ其内生外來ノ別ナク或

化メ自家同質者ト爲シ或排メ之ヲ體外ニ擯斥

ス 資成 立ナリ運動激發メ生力費耗シ物質缺乏

タル有ハ抗抵必暫休止ス 抗抵 其休止ノ間得

ル所ノ榮養更ニ其質ヲ補ヒ其力ヲ復スルニ足

三六〇 故云所謂自然良能ハ乃是人身固有ノ生
力運營ナルノミ故ニ今同一病諸家治法ヲ殊ニ
ニ或功力全相反セシル藥劑ヲ投メ共ニ其治ヲ得
カズリ若夫良能無ク何能然トヲ得シ實ニ不可
測ノ妙機ナラスヤ
轉徙ハ病其處ヲ轉徙シテ現證自退クヲ謂、疥癬
散メ肺勞發シ脚痛轉メ胃痛起ルカ如是ナリ或
一部膿腫潰瘍瘡疹環疽等ヲ發メ總身病痊ルカ
如モ亦此ニ屬ス原是所謂分利ノ一機ニメ只其
不正ナル者ナリ故ニ其期ニ先テ之ヲ妨ル事故

攝生不良醫藥誤用等

有シ者多ハ此轉徙ニ罹ル

或云轉徙ハ皆病毒吸收管ヲ經テ血中ニ入り
或蜂窠質ニ傳テ他部ニ輸ル者ナリト之ヲ實
驗ニ徵スルニ果ノ然ル者少カラス乃這部ノ
膿腫分消メ那部焮衝ヲ發スルト無ニ俄然ト
メ其膿ヲ泄スト有カ如シ精微病毒ニ至テハ
其流注視可ラスト雖此亦此傳送ナシト謂ヘ
カラス然レ轉徙悉皆傳送ト意ト勿レ又夫對
稱機及襲替分泌ノ所爲ナル者鮮トセス
變形ハ其處ヲ徙サス唯其形ヲ變スル者ナリ而

病學通論 卷之三

ニキテ凡、發證饒多ニメ過劇ナル者、其危險ヲ兼ル
ト否ルトヲ論セス之ヲ重病ト名ケ其輕易ナル
者之ヲ輕病ト名ク假令重病ト雖凡危險ノ證ナ
ク醫治適當スレハ治スヘキ者ヲ善性病ト名ケ
外候輕易ナルカ如、ニメ不慮危險ニ進ミ精力卒
ニ脱スル者ヲ惡性病ト名ケ而、既ニ試驗ヲ歷シ
對證、諸藥皆功ヲ奏スルヲ能、サル者ヲ頑性病ト
名ク

治病 ケ、ゲ子、スレ、イ 不治病 オ、ン、ゲ、子、スレ 死病
ド、デ、レ、イ、ケ、シ、キ、テ、ン 不治病ハ痊ルヲ能、サル病ナリ死

病ト別アリ全然不治者アリ術ヲ以テスレハ救
ヘク自性ニ任スレハ治ス可、サル者アリ或、僅ニ
治スヘクメ全、治ス可、サル者アリ死病亦、必死者
アリ速、之ヲ救、ハ生、ヘキ者アリ本來死ス可、ニア
ラス偶來ノ事故ニ由テ死ヲ致、ス者アリ
有利病 シ、ハ、ル、サ、ノ、病、生、機、ヲ、害、セ、ス、卻、テ、舊、病
一掃メ患者ニ利有、者是ナリ諸證強盛ニメ自然
良能、力雄健ナル諸病多、此ニ屬ス是其激動ニ由
テ潛藏ノ病毒ヲ外泄シ要器 心、肺、腦、ノ、疾、患、ヲ、導
去スルヲ得、ハナリ

病學通論 卷之三

十五 適適齋藏

第五由來區別

遺傳病 シエルクイテニイク 先天病 アインケボニレ 後

天病 フシルケレイゲ 遺傳病ハ賦生ノ始ニ於テ父

母ノ病ヲ其體ノ質中ニ稟受セル者ナリ先天病

ハ既ニ胚渾トナリシ後胎内ニ於テ自得シ病ナ

リ而分娩已後得所ノ病皆之ヲ後天病ト名ク

根病 レオイルスプロンケ 屬病 シアフケレイテ 根病

ハ本根病ナリ屬病ハ從前一病有テ之ニ從屬シ

來リ更ニ自家一病ヲナス者ナリ乃歟衝後ノ膿

瘍肝病後ノ腹水ノ如シ交感病ト別アリ 交感病ハ常ニ

本病ト相關係ス故ニ
自家一病トナラス

流行病 シハイルセニテ 傳染病 バスマケテレニ 散在

病 シスポラヂセ 流行病ハ一般流行ノ齊ク衆人ヲ

患シムル者ヲ謂而、其風土ニ關ル者ヲ英埴密ト

名ケ天行ニ係ル者ヲ越必埴密ト名ク

英埴密ハ一地ノ固有病ニメ多少常ニ流行ス是

其地ノ風土氣候飲食攝生人情等他邦ニ異ナル

所有ニ由ル乃溼地ノ間歇熱海濱ノ失苟兒陪苦

ポール國ノ糾髮病熱國諸島ノ發黃熱等ノ如

越必埴密ハ其地ノ異同ヲ問ス流行スル病ナリ

是一時衆人ヲ一般ニ襲所ノ病因有ニ由其因特

ニ大氣變革寒溫燥濕疎密輕重及其質ノ變若ハ兵亂饑饉等ニ

在者アリト雖凡亦人智ノ未全明ム可サル者多

而、其流行時ニ當テハ假令其病ニ罹サル者其生

力之カ爲、ニ一種性ヲ得之ヲ越必埤密性エビゲ

ヘテドト名ク故ニ當時患ル所々他諸病多少

其性ヲ挾サル者鮮シ喻ハ越必埤密衝性ナレ

ル衝性ヲ帶ルカ如シ越必埤密亦時令越必埤密セエビルレイキ留淹越

必埤密エビゲノ二般アリ時令越必埤密ハ

歳歳時令ヲ定テ流行スル者ヲ謂乃春ハ儻麻

夏ハ膽液病。秋ハ粘液病。冬ハ焮衝病。流行スルカ

如是ナリ然凡其流行各國風土ノ異同。氣候變革

ノ早晚。當時流行ノ諸病等ニ準テ又差等無一能

ハス留淹越必埤密ハ時令ニ拘ラス年月ヲ定メ

ス數月數年連綿メ流行スル病ナリ時令ニ隨テ代換セス若

ヲ以テ此名アリ其流行始微ニメ漸盛ナルノ

極ニ至リ後又漸退キ終ニ全消失ノ他越必埤密

ト交代ス或、其始極テ太甚、後漸衰ル者アリ淹留

越必埤密ノ原因固體外ニ變ニ感メ生力一種ノ

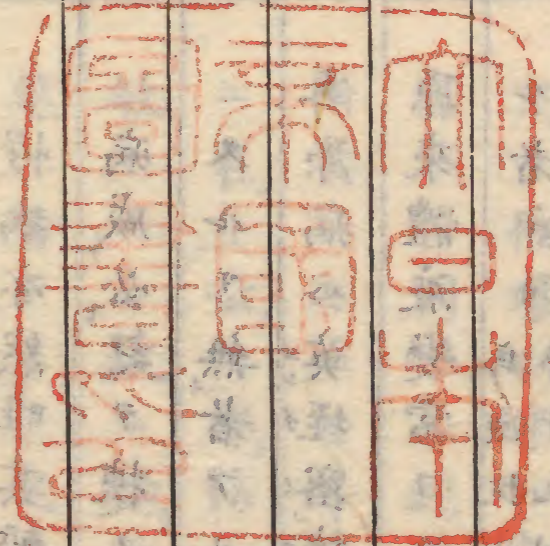
變態ヲ得ニ由ト雖凡其病時令ノ候。天氣ノ變ニ
係ルノ毫之ナキ者アリ故ニ大氣質中測知可サ
ル一種ノ變動有ニ由ト然凡其流行或年月ヲ
定テ循環シ來ル者テリ或風土ノ異時候ノ變ヲ
擇ハス同一ノ經過ヲ遂ル者テリ且人獸其流行
ヲ共ニセサル等ヲ以テ之ヲ觀ハ其原大氣質中
ニ在ト云モ亦信シ難シ或云人身感應力極テ精
敏ナルカ故ニ獨天地日月星辰ノ運行ニ感動メ
然ル者ナリト之ヲ要スルニ畢竟不測ノ因ニ屬
スルナリ

留淹越必埤密ノ性ヲ挾ムハ熱性諸病ナラス
慢病亦然唯其較著ナラサルノミ然凡同時諸
病咸必之ヲ挾ムニハアラス間亦全之ニ關係
スルヲ無者アリ

傳染病ハ英埤密越必埤密ト自其原ヲ異ニス
是原來體液變常ヨリ毒ヲ生シ衆人相傳テ感染ス
ル者ナリ病機抗抵第十九則然凡始天然流行病ニメ後遂
ニ傳染病トナル者亦鮮カラス

散在病ハ流行病ニモ非ス傳染病ニモ非ス世間
ニ散在セル各人各病即尋常雜病ノ總稱ナリ

諸病又男女稟賦體質年齡衣食生産等ニ準ノ區別アリ亦察病施治必究ノ要務ナリ然レ是多ハ病ノ素因ニ涉ルカ故ニ病因編ニ論載ス



病學通論卷之三 終

增補 正譯 鍵

廣田憲寬先生補正 全部四冊

和蘭語ト我邦語ヲ對譯セル舊本即チ譯鍵ト題セル者既一世ニ公認セリ然リトイハレハ蘭語ヲ載スル一要約ニ過ギテ初心ニ便ナラズ之ヲ注譯スルモ亦彼意ヲ盡サル一少カラス學者之ヲ憾ムル一久シ此ヲ以テ今又大ニ其不足ヲ增加シ譯語ヲ改正シ且ツ一々其語類ヲ弁表メ增補改正ノ四字ヲ冠ラシメ以テ舊本別ツト云フ實ニ此書ヲ簡便ニメ又備レリト謂ツベシ

病學通論

緒方洪菴先生譯述

初篇三冊既刊 次篇兩出

事物ノ病ヲ成ス所以ノ理ヨリ諸ノ病因病證ヲ弁晰究定セル書ニ醫家コレヲ熟讀セハ百般ノ病理判然トメ疑惑スル所ナク千般ノ治方自ラ明決スベシ凡ソ志ヲ濟生ニ用ルモノハ日夜手ヲ解ベカラザルモノナリ

扶氏經驗遺訓

同 譯

全部廿五冊

扶歌瀾度ハ當時西洋諸國ニ卓絶タル名醫ニ著書頗ル夥シ中ニ就テ此經驗遺訓ハ最モ單思澄心メ齡八十歳ニ迄ルマテ實測ニ原ヒテ研討拆衷シ而シ初テ梓行セリ故ニ彼内科書中未タ此ノ如キ確切ノモノアラズ凡ソ濟生ニ從事スルノ徒ハ漢蘭ヲ問ハズ日用必ズ須臾モ座右ヲカクベカラザルモノナリ

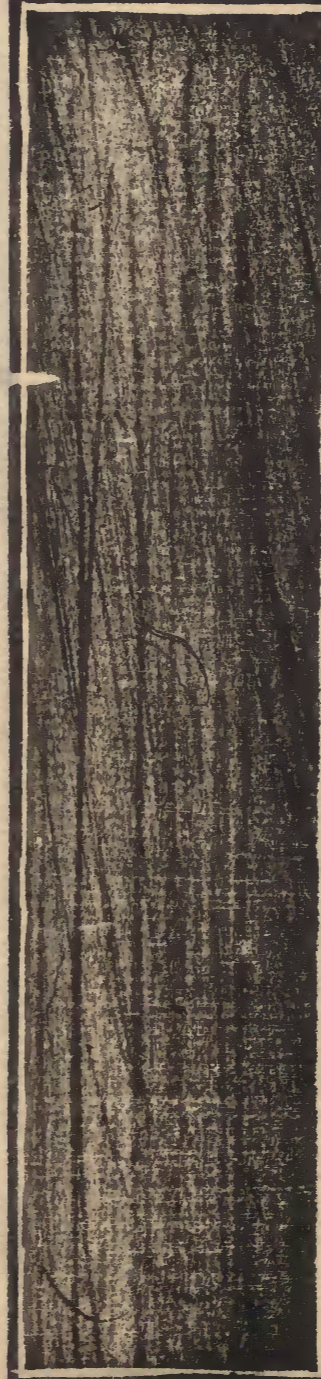


遠西名醫 察病龜鑑 青木浩齋先生譯 全部三冊

扶歌蘭度 此書ハ診察法ヲ懇論セル者ニ扶歌蘭度君ノ著ナリ彼經驗遺訓ト同ク一生ノ實測ヲ積ミ八十歳ニ至テ初テ上梓シ經驗遺訓ノ卷頭ニ附シ一帙ト做メ世ニ同行セシム其論ノ精詳明確實ニ診家ノ龜鑑醫人ノ寶玉ト謂フベシト古來胤論診察論アリトイハレ豈コノ書ノ確切ナルニ如ンヤ

泰西名醫彙講 箕作阮甫先生纂述 既刻八冊

西洋諸國ノ諸名醫輩各々痲痺廢疾ヲ救ハント欲メ日夜焦心刻苦シ而遂ニ大發明ヲ致セル名方奇藥多シ故ニ亦タ之ヲ纂輯セル叢書少カラズ今其中ヨリ奇偉特拔日用ニ最切ナル者ヲ抄譯集録メ濟世ノ裨益ニ供ス医家百方無驗ノ痲疾ニ遇フハ此書ヲ探索メ其裨益ヲカラバ偉勲神績ヲイタカセリ



安政四年丁巳初秋

三都書賈

- 京二条通柳馬場 若山屋茂助
- 江戸日本橋通壹町目 須原屋茂兵衛
- 同二町目 山城屋佐兵衛
- 同芝神明前 岡田屋嘉七
- 同淺草茅町二丁目 須原屋伊八
- 大坂心齋橋通北久室寺町 秋田屋治助
- 同安堂寺町其ノ入 秋田屋善助
- 同安堂寺町南ノ入 秋田屋太右衛門

